

東北地方日本海側における近世墓

高橋 学（秋田県埋蔵文化財センター）

東北地方日本海側にあたる山形県、秋田県、青森県で発掘調査された近世墓あるいはその関連遺構が確認された遺跡は、第1表に示したように多くはない。当該3県では青森県が突出した形を示しているが、それは東部の太平洋側に集中し（第1図24～42の19遺跡で約250基）、西部の日本海側では限定的である。検出事例が少ないことについては、発掘調査の対象となることが稀な近現代あるいは現在も利用されている墓地の成立時期や各種開発予定地内の地目（墓地、境内地）を考慮した発掘回避なども要因と考えられるが言及できない。

本稿では、発掘調査された当該地方の近世墓について、葬法とその分布状況について紹介する。

1 葬法とその分布状況

①**火葬墓** 埋葬方法が明確な遺構に限定すれば、火葬墓は秋田県の中～南部と青森県中～北西部に分布し、山形県や秋田県北部、青森県東部では未確認である。青森県中～北西部の五所川原市隈無（8）遺跡では火葬場跡も調査されている。火葬骨の収納容器では、弘前市の弘前藩津軽家墓所のうち第3代藩主津軽信義墓から信楽焼の茶壺が出土している。秋田県横手市の本郷家墓地（第2図）では底部を打ち欠いた肥前産大甕に火葬骨を収納していた。その他、多くの火葬墓は容器をもたず、土坑に直接納められたようであるが、13世紀代の事例では曲物容器に火葬骨が入れられていた事例も存在する。いずれにしろ、本集成作業を通して火葬墓の確認件数が予想以上に少ないこと、分布の偏在を記録しておく。

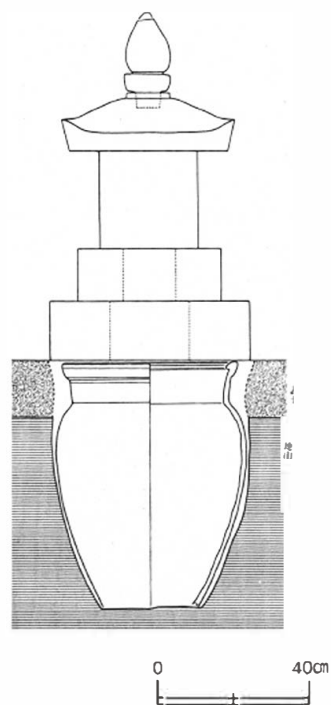
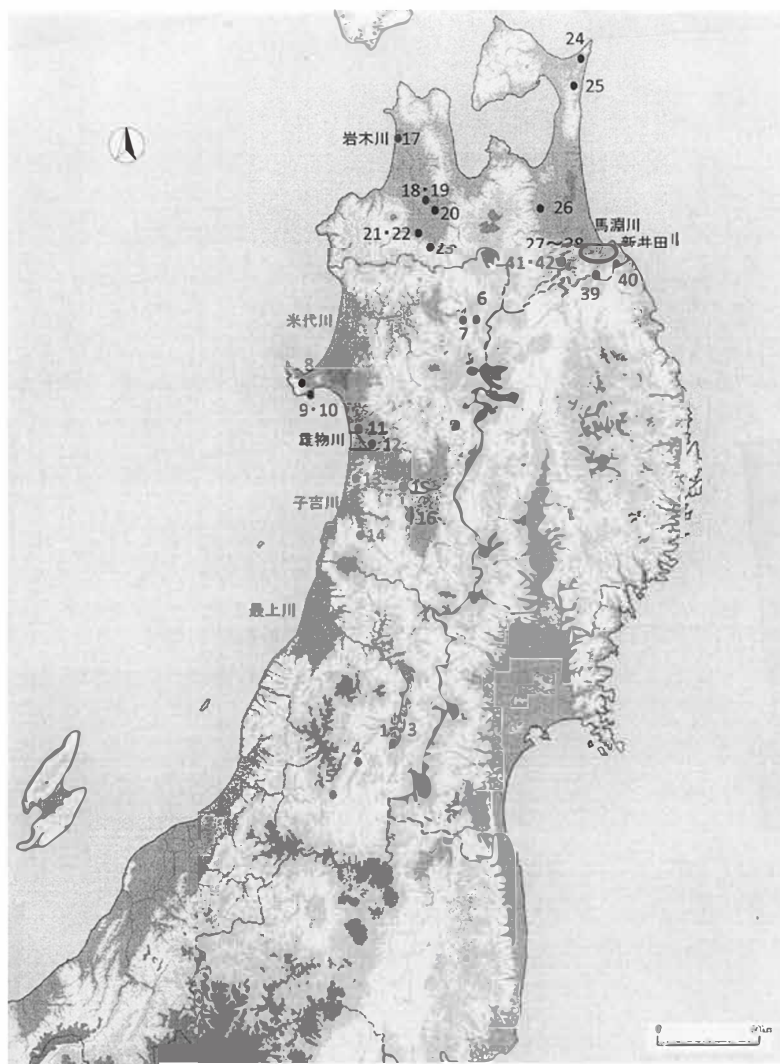
②**土葬墓** 土葬墓では遺体を木棺等の容器に埋納する場合と土坑内に直葬する二者が想定される。前者では平面形が長方形・方形を示す直方体・立方体箱形木棺と円形の桶形木棺（早桶）といった木質容器が認められるが、陶製の甕棺などは未検出である。ただし、木棺の場合であっても、部分的な木片や押圧痕としての確認に留まる事例が多く、全体構造を復元できる遺構は極端に少ない。このなかであって、木棺が多く確認された山形市洪江遺跡の例を紹介する（第3図）。

ここでは二度の調査で200基の近世墓（18世紀後半～19世紀後半）が検出された。うち、第4次調査区で確認された169基の墓については、箱形木棺93基（55%）、早桶12基（7%）、直葬64基（38%）とするデータが示されている。箱形木棺には、土坑底面に複数の横木を渡した上に筵を敷き、その上に木棺を置くタイプ（箱形A）と底面に直接木棺を置くタイプ（箱形B）に分けられる。その基数は、箱形Aが52、箱形Bが17である。

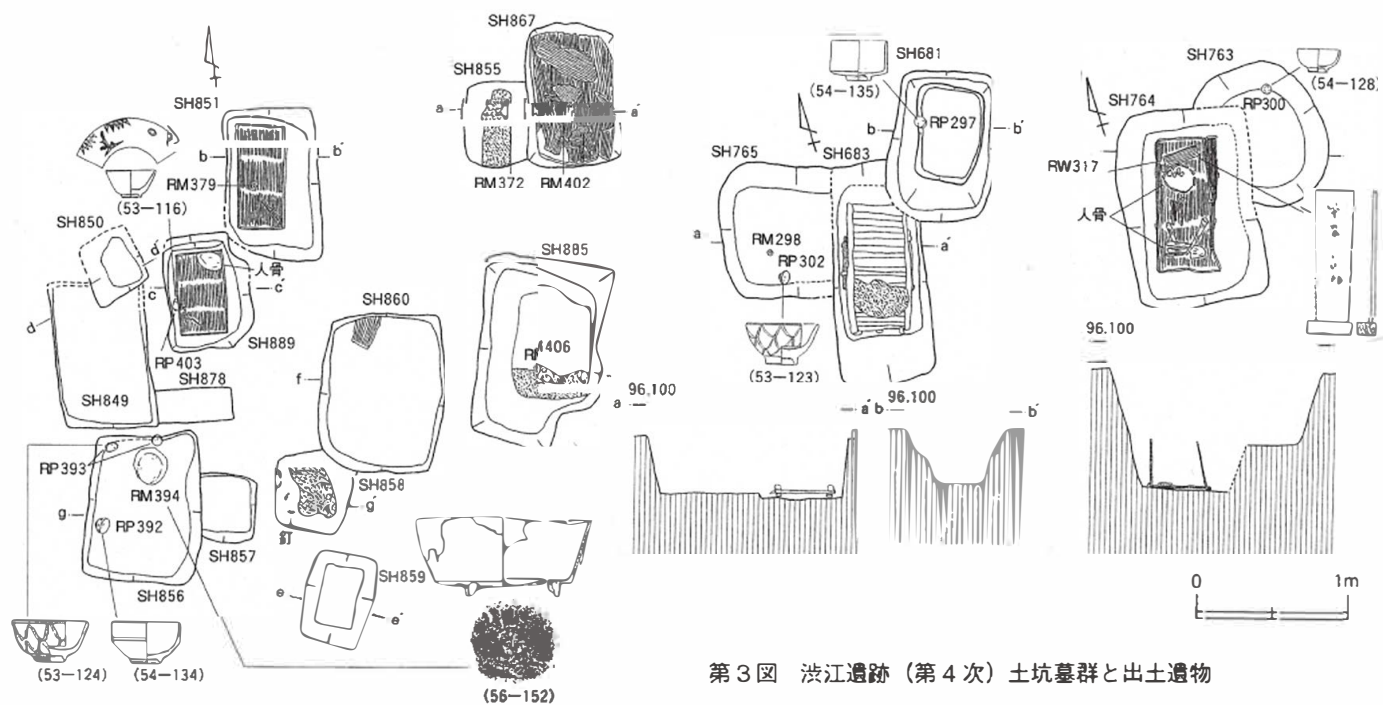
2 まとめ

東北3県における近世墓の集成作業により、該当する遺跡数が多くはないという想定内であったものの、分布の偏在はそれを超えるものであった。すなわち、青森県東部域に一定数の土葬墓が存在するのに対し、日本海沿岸部の山形県庄内地方や秋田県北部～青森県西部では極めて限定的である。加えて火葬墓の抽出数が予想以上に少ないことも確認できた。分布の多寡・偏在の要因をここで述べることはできないが、当該沿岸部域に浄土真宗の寺院・門徒数が多いこと、真宗が火葬の奨励を積極的に行っていることも因子として考慮する必要があるのかもしれない。

なお、紙数の関係から文献類は記載を省略している。研究集会の発表要旨・資料集を参照されたい。



第2図 本郷家墓地 墓塔と収納容器



第1表 山形・秋田・青森県（日本海側）の近世墓・関連遺構検出遺跡一覧

番号	遺跡名	調査区	所在地	立地	時期	遺構の概要	遺物の概要	調査所見・備考	文献
1	中道南遺跡		山形市飯塚町	山形盆地、標高104mの沖積地	近世	土坑墓1基	骨片、木棺、寛永通寶4枚	山形盆地中央部に位置	1
2	渋江遺跡	平成12年調査	山形市渋江	標高96mの自然堤防上。調査区に隣接して現寺域あり	17世紀後半以降	土坑墓31基、直方体・立方体箱形、早桶、直葬あり	人骨、酒杯（伊万里）、水注（陶器）、櫛、漆碗、寛永通寶	寺域（真福寺）の北側に位置	2
		第4次			18世紀後半～19世紀後半	土坑墓169基。埋葬施設は、平成12年調査区と同じ。箱形には、土坑内に直接置くものと、底部に横木を渡し、その上に筵を敷くものの別あり	人骨、陶磁器（肥前系、福島・宮城産）、煙管、位牌、土人形（東北地方産）、鉄鍋（三足）、数珠、下駄、漆器皿、漆塗箸（竹製）、硯、米、寛永通寶、渡米銭	鍋破り葬あり。位牌は3基から出土、材質は杉と柳。木棺には「五」「卍」「○」などの墨書あり、材質は杉や松	3
3	双葉町遺跡		山形市双葉町	標高130mの扇状地上。山形城三の丸跡	近世	土坑墓13基	人骨、内耳鉄鍋（丸型湯口）、寛永通寶、渡米銭	鉄鍋の内部には頭蓋骨が残存しており、鍋破り葬と判断	4
4	北ノ台墓所遺跡		西置賜郡白鷹町鮎貝	平地	近世	土坑墓	寛永通寶、漆器櫛、鉄製品、銅鐙		5
5	郡之神遺跡	第1次	西置賜郡飯豊町椿	標高243mの段丘上	近世～現代	土坑墓11基、詳細な記述なし 土坑墓17基、平面形は隅丸長方形・方形	寛永通寶、櫛。副葬品を伴う墓は2基のみ	調査区の隣接地に墓地、塚あり。1基は一字一石経を伴う経塚で江戸前期の構築	6
		第2次							7
6	柴内館跡	D区	鹿角市花輪	米代川水系、標高160mの舌状台地上	17世紀前半～18世紀後半	土坑墓14基。人骨確認は12基。埋葬形態は座位屈葬、横臥屈葬、仰臥屈葬の別がある	寛永通寶、無文銭、切羽、煙管、数珠玉、銅製鏡、銅製皿、和鉄、火打ち金、木製櫛、鉄釘	東北大学大学院医学系研究科（百々幸雄他）人骨12体の鑑定報告	8
7	大日堂前遺跡		大館市比内町独鉦	米代川水系、標高110mの台地上	中世末～近世	小土坑内に石塔が立った状態で検出	骨片の出土はなし	土坑前面に陶製の長頸壺（常滑系か）が置かれていた	9
8	真山遺跡	第II区	男鹿市北浦真山	男鹿半島西部、標高160mの丘陵地上	15世紀以降	41基の墳墓群が点在。うち22基調査。いずれも盛土をもち、下に土坑をもつもの、周溝をもつものあり。骨片を伴う墓は4基	2基から珠洲V期相当の播鉢片、少なくとも3基からは柴付皿、煙管、寛永通寶や鉄片等出土	墳墓群は明治初年に廃寺となった光飯寺住職の墓地との伝承が残る地	10
9	脇本館下II遺跡	第12次	男鹿市脇本脇本	男鹿半島南端、標高22mの丘陵上	近世	土坑墓3基。方形基調のプラン、1基の一边は1.2m	板材（木棺か）、寛永通寶、漆塗製品	脇本城跡の東側に位置、脇本城関連の宗教施設か	11
10	脇本城跡	お念堂地区	男鹿市脇本脇本	男鹿半島南端、標高20mの丘陵上	16世紀前半～17世紀前半	沢の護岸施設として、杭列と横板等の木材が多量に出土した状態で検出。横板として柱状塔婆が転用	柱状塔婆4基（最大のもの長さ約28m）。沢部包含層から柿経、笹塔婆、板塔婆の木製品	城跡の南西端部に位置。「月心明宗大姉覺●位」と印刻の墓石出土	12
11	秋田城跡	第10次	秋田市寺内嶋ノ木	旧雄物川河口、標高50mの台地上	中世末～近世	土坑墓10基。形状は一辺・長軸1～1.5mの楕円形・円形	永楽通寶、洪武通寶、大■通寶、■享元寶、寛永通寶、人骨	古代城柵秋田城跡の外郭築地崩壊土上面に構築	13
		第42次	秋田市寺内嶋ノ木	旧雄物川河口、標高39mの台地上	近世	土坑墓1基。径1.5m、深さ0.8m	土坑内に素焼きの壺を正位に埋納、柴付皿が入れられていた	第42次調査区は、外郭線南東隅部外側（城外）	14
12	黒沼下堤下館跡		秋田市河辺北野田高屋	標高35～40mの丘陵地	18世紀前半以降	土坑墓6基	人骨、寛永通寶（秋田川尻銭含）、半合羽ボタン（銅製）、木片、釘	炭素素同位体分析	15
13	龍門寺茶畑遺跡		由利本荘市岩城町赤平	日本海沿岸部、標高28mの段丘上	17世紀代	土坑墓1基。輿状の木製葬具を伴う土葬墓であり、改葬を受けているとする	鉄釘、銅製品、木製品。土坑周辺出土の陶磁器は17世紀中頃を主体	遺跡に隣接する龍門寺は、近世・岩城氏の菩提寺、1628年の開山	16
14	助の潤遺跡		由利本荘市矢島町七日町	子吉川水系、標高50mの沖積地	17世紀初頭か	火葬関連の土坑20基、堅穴状遺構3基検出。火葬骨が出土したのは4基、土坑は長軸平均1.1m、短軸0.7mの楕円形、不整形	火葬骨以外の遺物なし。火葬骨と灰層、焼土層、炭化物層、炭化材を確認	遺跡は12世紀末～13世紀半ばまで鉄生産、以降は掘立柱建物や井戸からなる集落跡	17
15	西板戸遺跡		大仙市南外字西板戸	雄物川水系、標高20mの段丘上	18世紀前半以降	土坑墓4基。平面形は円形と隅丸方形、楕や方形の痕跡あり、径一辺が0.6～0.8m	寛永通寶（秋田川尻銭含）、土人形、漆器片。土人形は3基から6体出土	2014年調査、未報告	18
16	本郷家墓地		横手市大森町袴形	雄物川水系、標高40mの丘陵上	19世紀前半～	無銘の墓塔下に肥前産の大甕を埋設。墓石は宝塔を簡素化させた形態、擬宝珠、笠部を含め五層からなる。墓塔は浄土真宗特有の形態	大甕は底部を欠失後に正位で埋設。現存高66cm。口径47.2cm。最大径50.7cm。火葬骨充填	石材は肉眼観察では安山岩であり、地元産の「蛭川石」の可能性が高い	19
17	十三湊遺跡	第15次	五所川原市十三（旧市浦村）	岩木川河口、潟湖である十三湖と日本海に挟まれた砂丘上	19世紀	土坑墓4基	煙管		
		第34次			近世	土坑墓1基			
		第83次			19世紀	土坑墓8基、火葬墓1基。土坑墓は棺箱。	煙管	浄土宗湊迎寺の東側隣接地	20
		第95次			17世紀か	火葬墓10基		湊迎寺境内	
18	隈無（2）遺跡		五所川原市羽野木沢	岩木川水系、標高25mの丘陵上	近世	火葬場跡1。石組の焼き場2基と、これを囲む溝からなる。石組はシルト・珪藻土を板状・煉瓦状に切り出したブロックを使用	男根形の石製品、未炭化の小豆	近世とする根拠を示した記述はない	21
19	隈無（8）遺跡	B区	五所川原市羽野木沢	岩木川水系、標高21mの丘陵上	近世後期	土葬墓8基、火葬墓11基	人骨、寛永通寶。土葬墓は副葬品なし、火葬墓も2基から銭貨が出土するのみ	その他時期不明の土坑のなかには近世以降の墓が含まれている可能性あり	22
20	長溜池遺跡		青森市浪岡町女鹿沢	岩木川水系、標高36mの段丘上	18世紀	土坑墓7基。円形周溝を伴う土葬墓あり	人骨、寛永通寶、煙管、白磁小皿、ガラス玉、釘		23
21	弘前藩津軽家墓所		弘前市新寺町	弘前城下の報恩寺内	17世紀中頃～19世紀後半	津軽家に関連する13墓が調査された。遺体が埋葬されていたのは3代藩主信義墓と子息墓3基のみ。信義墓はヒバ材で組んだ木槨のなかに刺り抜きの石棺を置き、火葬骨を入れた信楽焼の茶壺が納められていた。子息墓は土葬墓	子息墓のうち、津軽承祐墓は第11代藩主津軽順承養子（安政2年（1855）没、18歳）。副葬品には太刀、古今和歌集、喫煙具、小鉢。他子息墓には六角塔婆、ガラガラ、櫛、簪、土人形など	報恩寺は津軽藩主の菩提寺、天台宗。昭和29年調査、3～11代の藩主墓と藩主の子息墓4基	24
22	松前藩13代藩主松前徳広墓所		弘前市西茂森1丁目	弘前城下の長勝寺内	1868年（明治元年）	木室・木槨からなるが木槨なく、改葬墓。明治3年に北海道松前町法徳寺に改葬	角塔婆、櫛、元結、縄、剃刀、和鉄、砥石、鉄製箸、竹製箸入れ、和紙	長勝寺は津軽藩主当初の菩提寺、曹洞宗。平成24年調査	25
23	鶴ヶ鼻遺跡		南津軽郡大鰐町宿川原	旧羽州街道に近接、標高85mの丘陵先端部	近世～明治	土坑墓1基、火葬墓15基。土坑墓は長径1.1mの楕円形、火葬墓は不整形が多い	土坑墓には人骨、板碑、煙管、墨、蛤（葉入れか）。火葬墓には火葬骨細片のみ、周囲から寛永通寶など採集	板碑は墓標代わりに、あるいは遺体に蓋をする意図で置かれたか	26

※脇本城跡備考欄の●印は、「霊」の古字である「𪛗」

1～5：山形県、6～16：秋田県、17～：青森県